

年間第二十三主日

2017.9.10

マタイ 18・15-20

カトリック高円寺教会
主任司祭 吉池好高神父

「あなたがたが二人または三人がわたしの名によって集まるところには、わたしもその中にいる」。今日の福音のイエスのみことばです。このように言ってくださるイエスの招きに答えて、今日もわたしたちはこのミサに参加させていただきました。

「二人三人がわたしの名によって集まるところにはわたしもその中にいる」と言われる主イエス・キリストは今日もこのミサの中にもにいてくださり、わたしたちに語りかけておられます。その主のみことばとして、今日の福音を心に留めたいと思います。

わたしたちとともにいてくださるイエスは、ご自分を十字架に架けた者たちのために、『父よ、彼らをおゆるしてください。自分が何をしているのか知らないのです』と祈られた主です。ご自分を十字架の苦しみの中に見捨てた弟子たちに、何事もなかったかのように、「あなたがたに平和」と呼びかけてくださる復活の主です。その主のもとに集うわたしたちは、互いにゆるし合うこと学ばなければなりません。ゆるし合うことの難しさを経験する中で、わたしたち全てをゆるし、受け入れてくださっている主のゆるしのありがたさを味あわせていただきましょう。こうしてわたしたちは少しずつ、主の大いなるあわれみの御心の中に受け入れられている自分たちを見出してゆくことができるのです。

今日の福音の前の箇所では、迷い出た一匹の羊を探しに出てゆく牧者のたとえが語られています。その結びとして「これらの小さな者が一人でも滅びることは、あなたがたの天の父の御心ではない」と言われています。わたしたちの天の御父の目から見れば、わたしたちはみな、いとおいしい、かけがえのない子供たちたちなのです。その一人でも滅びることは、御父のお望みではないのです。そのような御父の望まれていることをわたしたちの分からせるために、神の独り子であるわたしたちの主イエス・キリストは、ともすれば、散り々なりがちなわたしたちのもとに、真の牧者として来てくださったのです。その牧者のもとにわたしたちみなが一つの群れとなることが御父のみ旨だからです。

わたしたちの高円寺教会では、昨年来、「教会に戻っていただくために」というキャッチフレーズの掲げてさまざまな取り組みを行っています。この秋には受洗十周年の迎える方々に呼びかけて、記念の感謝ミサと集いを計画していま

す。このような試みが、天の御父のお望みに応えるものとなりますよう、ご一緒に祈りましょう。「あなたがたが地上で心をつにして求めるなら、わたしの天の父がそれをかなえてくださる。」このみことばに励まされて、わたしたちの心にかかっている人たちのことを思い浮かべながら、このミサをおささげいたしましょう。